



東京部会(第 31 回)

日 時: 2010 年 7 月 22 日 (木) 19:00-21:15

場 所: 日本大学経済学部 3 号館(図書館)4 階会議室

参加者: 篠原(同志社大)、小巻(日大)、加藤(日大)、中川(日大)、浅田(日大)、土井(日大院)、新井(都立小石川中等教育)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等教育)、升野(大妻中高)、山崎(北海道豊富高)、鈴木(経済教育センター)、榊原(東証)、石山(東証)、神尾(第一学習社)、宮尾(筑波大) [順不同]

【内容要旨】

1. 篠原先生からは、前回6月17日の東京部会での報告から大きな変化がないことが指摘された。
2. 宮尾より提案されたウィリアム・コマナーUCLA教授の講演会「経済学とは何か—中高生にどう教えるか」は、9月14日(火) 19:00~20:00、場所は日大経済学部7号館13階会議室3で開催することが決定。どのような関係団体にどこまで周知させるかは今後相談して判断することとなった。
3. 新井先生より、8月の教員研修「先生のための夏休み経済教室」について詳しい報告があり、参加予定校数、教科書の手配、資料の準備などが再確認された。
4. さらに、研修で行われる中川先生による「入試問題、経済概念、理論の解説」の内容について検討が加えられた。具体的に、マクロの総需要の構成要因や三面等価の法則、ミクロの余剰概念や外部経済の内部化などについて議論されたが、特に「余剰」を高校段階で教えることの是非、教える方法や順番などについては参加者の間で意見が分かれ、依然として大きな課題であることが再認識された。入試問題解説に関して配布資料「入試問題を解くための解説(篠原)」および「高校の教科書と同じ問題を抱える経済入門書(宮尾)」も取り上げられた。今後、経済教育ネットワークがなすべきこととして、よい解説を引き出すようなよい問題を作成すること、それと並んでよい教科書をできればゼロベースで作成することが指摘された。
5. 新井先生より、7月末に発行予定の「メルマガ」の内容、および「ニュースレター夏季号」の準備などについて予告や投稿要請などがあった。
6. 最後に、参加メンバーの最近の活動や今後の予定の報告、特に現在、筑波大学に在籍の山崎辰也先生(北海道豊富高校)の感想と抱負、さらに篠原先生より北海道から福井にいたる各地の活動状況などについての報告があった。

(文責: 宮尾尊弘)

次回開催予定: 9月14日(金)の講演会後に同会場で、20:00~21:30、日大経済学部7号館13階会議室3。
主な議題としては、8月の研修の総括などが予定されている。